

女性小児歯科医委員会企画リレー講演
202030 男女共同参画の推進 Part III

①



日本赤十字社医療センター

笠井 靖代

1988年3月 東京医科歯科大学医学部医学科卒業
1988年5月～ 三井記念病院、東大病院、日立総合病院、三楽病院で研修
1996年3月 東京大学大学院 医学系研究科修了
1996年4月～1999年3月
日本学術振興会特別研究員
1997年9月～2000年1月
米国 タフツ大学 New England Medical Center Research
Fellow (テーマ エストロゲンと血管保護作用)
2000年2月～ 日本赤十字社医療センター 産婦人科
2013年4月～ 日本赤十字社医療センター 第三産婦人科部長

所属学会

日本産科婦人科学会、日本周産期・新生児医学会、日本人類遺伝学会、
日本遺伝カウンセリング学会、日本周産期メンタルヘルス学会(理事)、
日本母乳哺育学会(企画渉外委員)、日本女性医学学会、東京母乳の会、日本母乳の会

学会専門医等

日本産科婦人科学会 産婦人科専門医、指導医
日本周産期・新生児医学会 周産期専門医(母体・胎児)
臨床遺伝専門医、指導医

生殖医療に関する遺伝カウンセリング相談受け入れ可能な臨床遺伝専門医

著書

「35歳からはじめての妊娠・出産・育児 産んでよかったこと、考えなくてはいけないこと」家の光協会 2015年
「はじめの妊娠・出産 毎日ケアBOOK」朝日新聞出版 2014年

妊娠・出産・育児は連続した営み
—これから出産を考える女性に産婦人科医から伝えたいこと
Pregnancy, Delivery and Childrearing is all Continuous Process

日本では、少子高齢社会が問題となっているが、「子どもを生む・生まない」の選択は、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに基づき、個人が決断するべきものである。

晩婚化などの要因で、不妊治療を必要とする女性が急増しており、2012年には、27人に1人の新生児が体外受精により生まれている。妊娠・出産・育児は、本来は連続した営みであるはずだが、不妊治療では、妊娠がゴール、周産期医療では、出産がゴールとなりがちだ。しかし、命の誕生を迎えることは、続く育児のスタートラインに立つことでもある。そのために、女性が主体性を持って、妊娠・出産にのぞむことがより一層大切になっている。また、母親が心身共に安定して育児を行うためには、育児を母親だけに押しつけないで社会全体でいかにサポートしていくかが重要な課題と考える。そして少子化に関わらず、子どもを生みたいと思える社会を本当にめざすのかどうか問われている。

女性小児歯科医委員会企画リレー講演
202030 男女共同参画の推進 Part III

①



日本歯科大学 新潟生命歯学部 小児歯科学講座

下村-黒木 淳子

平成 9 年 3 月	新潟大学歯学部歯学科卒業
平成 13 年 3 月	新潟大学大学院歯学研究科修了
平成 13 年 4 月	新潟大学歯学部附属病院医員
平成 16 年 4 月	日本歯科大学新潟歯学部附属病院小児歯科講師
平成 18 年 4 月	日本歯科大学新潟生命歯学部小児歯科学講座講師
平成 20 年 4 月～現在	日本歯科大学新潟生命歯学部小児歯科学講座准教授
平成 26 年 5 月～	
平成 27 年 10 月	ヘルシンキ大学バイオテクノロジー部門客員研究員

学会専門医等
日本小児歯科学会専門医指導医

女性が働きやすい環境作り
- 北欧への子連れ留学体験から考える -

How to Make the Comfortable Work Environment for Women
- Considering from Study Abroad Experience to Northern Europe with Children-

日本小児歯科学会女性小児歯科医委員会は、女性小児歯科医を対象に行ったアンケート調査、学会での託児所設の常備化、さらに小児歯科医バンクの設立と、より多くの女性小児歯科医が生涯現場で働き続けることが出来るように、また専門医を取得・更新していくためのモチベーションを持ち続けられるように活動を続けております。

演者は、平成 26 年から 27 年にかけての 1 年 5 か月間に渡り、幼児 2 人を含めた家族全員でフィンランドへ留学する機会を頂きました。フィンランドは出生率が高い反面、母親の就業率がとても高いことでも知られています。その理由の一つとして、育児を家族全体で協力して行うことがあげられます。今回はこの留学で得た貴重な体験から、フィンランドの育児環境、育児支援、また育児と仕事の両立について紹介させて頂き、さらに日本とフィンランドの育児環境の現状を比較し、女性歯科医師が働きやすい環境作りを考えていきたいと思っております。